

MEDCHEM NEWS Vol.25 No.4 (11月1日発行)

巻頭言	アンメット・メディカル・ニーズ考	高柳輝夫
創業最前線	ラステムズ薬理学とゼブラフィッシュ創業	田中利男
WINDOW	グローバルファーマが日本のアカデミアに期待するもの	小川慎志・原田明久
ESSAY	特集：がん治療薬の研究開発最前線	
	新規分子標的薬開発にむけたがん研究の進歩	伊藤文雄
	新規甲状腺がん治療薬レンパチニブメシル酸塩の創製研究	船橋泰博・鶴岡明彦
	がん幹細胞の特性解析に基づく治療戦略の開発	佐谷秀行
	新規免疫チェックポイント阻害剤ヒト型抗 PD-1 抗体	
	ニボルマブの研究開発の経緯	吉田隆雄・柴山史朗
DISCOVERY	新規カリウムイオン競合型アシッドブロッカーボノブラザン (TAK-438)の創製	西田晴行
SEMINAR	アンテドラッグ/ソフトドラッグのドラッグデザインの実例と展望	今井輝子
Coffee Break	ハゼにみせられて	根本正樹
REPORT	第21回国際メタセシス学会参加報告	小笠原正道
	RICT 2015 参加報告	上原 弘
記事	第31回創業セミナー開催報告/創業懇話会 2015 in 徳島 開催報告	

新刊紹介

Book Review

理系のための文章術入門

作文の初歩から、レポート、論文、プレゼン資料の書き方まで

西出利一 著

化学同人/A5・257頁・1,800円+税

はるか昔薬学会の年会において、生まれて初めて他人の前で研究成果を発表したときのことを今でも覚えている。いざプレゼンが始まってみると、事前の誇らしい気持ちはどこへやら、緊張と準備不足が露呈してぼろぼろになってしまった。当時は習うより慣れろ、先輩の行動をよく観察し自分自身でやってみろ、という指導の時代で

あったように思う。

本書はそんな研究初歩の学生のために、文章やグラフなど発表資料の作成やレポート・論文へのまとめ方を紹介している。確かに発表の目的は何で、自分が最も伝えなければいけないのはどの点か、また誤解を招きやすいポイントはどこで、それを避けるためにどのような表現や話し方をするべきかなど、事前に準備してしっかり整理できれば、本番で過度に緊張する状況にもなりにくだろうし、質問者やレフリーともより有効な議論ができるはずである。

基礎編の日本語の文章構成のところ、主語と述語の関係などを丁寧に解説してい

る部分についてはここまでやるのか、と感じた。ただ最近では、社会人であっても報告書などを書かせると、文章自体が分かりにくいケースが散見される。一度、確認しておく必要はあるかもしれない。

かつてこんな本が欲しかった、と素直に思った1冊である。研究室配属となった学生の指導と並行して、この本を読んで勉強してもらおうなど、様々な活用場面が考えられる。研究初歩の学生向けとは書いたが、それだけでなく博士課程や研究職の方などが、自分のスタイルを再検証する目的で本書を手にとってみてもいいだろう。

佐藤康夫 Yasuo SATO